

大 学 史 研 究 通 信

第 49 号、2007 年 1 月 31 日（水）

大学史研究会

第 49 号の内容：会員ニュース・新入会員自己紹介・会員名簿の発行について・第 29 回研究セミナー報告・2006 年度総会議事録・2006 年度会計報告・年会費未納の方へ～納入のお願い～・会員新刊ニュース・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

会員ニュース

新入会員

永田英明（ながた ひであき）会員

所属：東北大学史料館

研究テーマ：大学アーカイブズ論

異動のあった会員

田中正弘 会員

新所属：島根大学

< 氏名の訂正 >

通信 48 号に掲載した新入会員の方のお名前に誤りがございました。お詫びして以下の通り訂正させていただきます。

（誤）藤井 基貴（ふじい もとたか）会員

（正）藤井 基貴（ふじい もとき）会員

新入会員自己紹介

永田英明 会員

私の勤務する東北大学学術資源研究公開センター史料館は、東北大学のアーカイブズとして大学の歴史に関する資料の収集・研究・公開を行う組織です。（大学史研究会のホームページからもリンクを貼っていただいています。ありがとうございます。）

私自身もここに勤務するなかで、大学アーカイブズの基幹業務である大学の歴史的公文書や個人資料等の収集・評価と保存・公開に携わり、またこれらを活用した大学史に関する展示企画・調査研究をも手がけて大学史の勉強を進めています。昨年度は東北大学における学徒出陣・学徒動員について展示を企画・実施し、今年度は明治期における旧制二高について地方都市と学生の関係という視点で展示を行っています。どうぞよろしくお願ひします。

最近書いたもの

「大学アーカイブズ資料論」(全国大学史資料協議会編『日本の大学アーカイブズ』2005年12月京都大学学術出版会)

「戦前期東北大学における留学生受入の展開 中国人学生を中心に」(『東北大学史料館紀要』創刊号 2006年3月)

会員名簿の発行について

総会の報告にもあります通り、本研究会の会員名簿を発行する運びとなりました。現在最終の作業に入っております。2月中には会員のみなさまのもとにお送りします。年度末のご多忙の折にお送りすることになりますが、よろしくご査収ください。また、多くの個人情報に記載されたものでもありますので、お取り扱いにご注意ください。

総会報告と重複する部分もありますが、会員名簿の概要についてお知らせします。発行は3年に1回の間隔といたします。今回に限り、昨年5月に名簿に関する調査を行った関係で年度末の発行といたしますが、次回以降は4月以降の発行を予定しております。名簿に記載される情報について2点お知らせします。第一に、昨年5月の調査の段階で記載を希望しない項目をお示しくださった方については、該当項目の記載を省きました。その際に特に希望をされなかった方および調査票の返送のなかった方については、全項目の記載がございます。第二に、調査票に専門分野を7文字以内で記入する欄がありましたが、7文字を越えているケースがございます。なるべくスペースに納めるように編集いたしますが、場合によっては趣旨に添わない結果となる場合もあるかと思えます。ご容赦くださいますようお願い申し上げます。今後、記載を希望されない項目、あるいは専門分野の修正などがおありの方は、事務局までお知らせください(事務局代表Eメールアドレス:jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp)。次回の会員名簿(2010年発行予定)より反映いたします。なお、少なくとも氏名については全員記載させていただきますので、その旨ご承知置きください。

(事務局名簿担当 岡田大士・吉野剛弘)

大学史研究会第29回研究セミナー報告

2006年11月25日(土)・26日(日)、大学史研究会第29回研究セミナーが近畿大学本部キャンパスにおいて、28名の参加者を得て開催されました。

まず、初日午後には、自由研究として二会員に以下のテーマでご報告いただきました。(1)土田 健一会員(東京大学大学院)「大学予備門の学生たち～人類学者・坪井正五郎の『小悟雑誌』における風刺絵を中心に～」(2)森良和会員(玉川大学)「ハーヴァード・インディアン・カレッジ」。これに続き、同日には総会ならびに懇親会が開かれました。

二日目は午前ならびに午後に「蘭学・英学・仏蘭西学・独逸学・魯西亜学・漢語学事始」のテーマのもと課題研究がおこなわれました。課題研究では、コーディネータの荒木会員による趣旨説明のあと、蘭学教育を医薬学の立場から再検討された米田該典先生(大阪大学)、開国前後の英語教育の変遷について論じられた西口忠先生(桃山学院史料室)、仏語系専門学術人材の系譜について整理された飯田史也先生(福岡教育大学)、幕末まで殆ど研究されることがなかったドイツ語の研究・教育の起源を探られた荒木康彦会員(近畿大学)、我が国と国境を接する唯一の西洋という視点からロシアとの交流およびロシア語教育の歴史について語られた澤田和彦先生(埼玉大学)、明治初期の中国語学校である漢語学所における教育について論じられたポール・シンクレア先生(銘伝大学)の各報告がおこなわれました。報告のあと質疑となり、短い時間ながらも活発な議論が展開されました。

以上のように、本年度のセミナーも無事終了することができました。ご報告・ご参加いただいた会員の皆様ならびに講師の先生方に心より御礼申し上げます。また、本セミ

ナーの開催にあたって、ひとかたならずご尽力いただいた開催校の荒木会員にこの場をお借りして御礼を述べさせていただきます。

(事務局セミナー担当 福石賢一)

2006 年度 大学史研究会総会 議事録

2006 年 11 月 25 日 (土)
於：近畿大学
事務局作成

議題

報告事項

1. 編集委員会からの報告
2. 会員名簿発行の進捗状況について (事務局名簿担当)
3. 事務局業務分担の変更について (事務局)

審議事項

1. 会計報告および予算案について (事務局会計担当)
2. 来年度のセミナー会場について (事務局セミナー担当)
3. 名誉会員制度の創設について (事務局)
4. 紀要の販売・定期購読について (事務局紀要担当)
5. 「大学史研究通信」のホームページ掲載について (事務局)
6. 会員名簿における情報の取り扱いについて (事務局名簿担当)
7. 会計監査人の選出方法について (事務局会計担当)
8. その他

議事内容

報告事項

1. 編集委員会からの報告

『大学史研究 22 号』を今年度内に出版する。また、来年度は特集を組んで原稿を募集するなど、投稿数の増加を図りたい。

2. 会員名簿発行の進捗状況について (事務局名簿担当)

5 月に全会員向けに名簿調査票を発送した。80 名余の会員から連絡があり、会員情報の更新を行った。名簿の見本もできたので、予算が承認されれば、今年度内に発行したい。

3. 事務局業務分担の変更について (事務局)

今後、早い段階で紀要担当を吉村局員から福留局員に交代する。また、名簿担当として岡田局員・吉野局員に委嘱した。

審議事項

1. 会計報告および予算案について (事務局会計担当)

[2006 年度会計報告 (本通信 5-9 頁) を参照]

2. 来年度のセミナー会場について（事務局セミナー担当）

現時点で会場は未定であり、今後の検討は事務局に一任された。

3. 名誉会員制度の創設について（事務局）

本会創設メンバーの3名の会員につき、会費を徴収しない名誉会員として推薦したい旨、事務局より提案を行った。会員より、定年退職者の会費を免除するなど、制度を広げた方がよいのではないかという意見が出された。参考意見として事務局で検討することとし、提案の会員3名の推薦については了承された。

4. 紀要の販売・定期購読について（事務局紀要担当）

従来、販売規定を確定してこなかったため、今年度購入希望者には寄贈するかたちで対応した。残部の関係から販売可能な号数を指定し、適当な定価を設定し、販売を行いたい。非会員機関の定期購読も可能とする。

5. 「大学史研究通信」のホームページ掲載について（事務局）

現在、バックナンバーの一部をホームページに掲載しているが、著作権の確認をできないので一旦削除し、目次のみ掲載とする。バックナンバーについて入手希望者があれば、事務局からPDFファイルなどの形式で個別に送付することは可とする。今後は投稿者にホームページ掲載の了解を事前にとった上で掲載をしていきたい。

6. 会員名簿における情報の取り扱いについて（事務局名簿担当）

通信で連絡した通り、5月の名簿調査の際に情報を頂いていない会員の情報については、事務局が持っているデータをそのまま記載する。名簿は19ページ程度になる見込みである。今後は、調査票を送らずに事務局に連絡があった異動のみを反映させ、3年間隔で名簿を発行したい。

7. 会計監査人の選出方法について（事務局会計担当）

会計監査の選出方法につき、総会に先立って『大学史研究通信』にて立候補・他薦を募り、総会にて承認する、候補者がとくにいない場合は事務局で推薦するという形式にしたい旨提案があり、了承された。

8. その他

会員より事務局の運営体制について提案があったことを受け、今後の会のあり方を含め、事務局にて検討を行うこととした。

大学史研究会 2006 年度会計報告

大学史研究会 2006 年度会計ならびに 2007 年度予算案につきまして、以下に概要をご報告いたします。

2006 年度収支報告について

【収入】

2005 年度会計からの繰越金は 2,630,069 円でした。

2006 年度年会費は 82 名の会員より納入があり（全会員の 56.9%）、年会費・入会金

の収入額は580,240円でした。これは2005年度納入額に比べ16,800円の減少となり、納入率にしてみれば約8ポイント低下しております。ただし、会計監査後に会費収入がありましたので、実態としては、前年度よりも4,200円の増大、納入率としては59.7%でした。2006年度は名簿調査の都合上、会費請求が例年より遅くなったことも関係していると思いますが、実収入が増加したとはいえ、やはり納入率5ポイントの低下を見逃すことはできません。年会費の納入は、年々滞り気味になっており、今後の研究会の運営に及ぼす影響が懸念されます。本研究会収入の大半は年会費によっております。研究会の発展と円滑な運営のために、年会費納入にご理解ご協力をお願い申し上げます。

こうしたことを受けて、昨年度はじめて、年会費未納の方に会費納入依頼通知を総会后に再送しましたところ、総会の時点での納入率約65%が最終的には約83%まで上昇いたしました。昨年度総会において、一般の学会では会費納入率が8割とのご指摘を受けましたが、幸い、その水準を超えることができました。こうした試みは今後是非とも継続して行ってまいりたいと思います。つきましては、2006年度会費未納の方には、本通信に会費納入依頼通知と払込票を改めて同封させていただきました。詳しくは後述の「2006年度年会費未納の方へ～納入のお願い～」や同封の会費納入依頼通知をご覧のうえ、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、年会費額は一般会員5,000円、院生等会員3,000円ですが、会計報告においては、その納入総額が「端数」となっています。これは2005年度の会費請求まで、「郵便振替払込」で年会費納入をしていただいた場合、「払込料金加入者負担」としており、会員各位の入金額から払込料金経費が差し引かれることによります。昨年度総会で了承されたとおり、2006年度から払込料金を本人負担とすることになりましたが、2005年度会費未納者の方への督促は「払込料金加入者負担」の払込票を利用いたしました。このため、2006年度会計報告においては、会費納入総額がまだ端数となっております。

その他の収入として、第28回セミナーでは大きな支出もなく、13,607円が残金となりました。また、例年、「大学史研究」(紀要)の販売代金が収入に含まれておりましたが、2006年度は非会員への販売規定を整備する必要から販売を行わなかったために収入はありませんでした。

2006年度の総収入額は3,224,035円、前年度繰越金を除いた実収入額は593,966円でした。

【支出】

2006年度は「大学史研究」(紀要)が発行されなかったことから、支出に紀要発行経費が含まれておりません。

印刷費については1,604円の支出となります。これは「大学史研究通信」発行の印刷、会員への諸連絡印刷物、年会費納入依頼通知の印刷等の経費です。

通信・郵送費の支出100,230円は、「大学史研究通信」の発送、年会費納入依頼通知の発送、セミナーの出欠調査ハガキ、その他宅配便等の経費です。経費節減のために郵便物はできるだけまとめてお送りするようにしておりますが、今年度は名簿調査などを行ったことから、例年より若干多くなっています。

消耗品・諸雑費として5,687円、また、謝金として30,000円を支出しました。「大学史研究通信」の発送や名簿データ入力補助など、一度に大量の事務作業がある時はアルバイトを依頼しております。

その他、編集委員会旅費4,730円、事務局会議費17,801円の支出もありました。2006年度には、今回の総会でご議論いただいたさまざまな事項を検討するために事務局会議を2回開催いたしました。遠方の事務局員には別の会合とできるだけ兼ねて出席しても

らうようにし、旅費の負担を節減する方向で努力しております。

次年度繰越は 3,063,983 円、来年度繰越金を除く総支出は 160,052 円でした。繰越金を除く収支の差は前年度の赤字から一転し、433,914 円の黒字となりました。しかし、これは 2006 年度にかぎり、紀要発行経費が支出に含まれていないからです。

「2006 年度会計報告」に明らかたとおり、2006 年度の会計については、前年度に引き続き、進藤修一会員に監査を依頼し、精細な監査の上会計の適正処理をご承認いただきました。御多忙のなか、監査業務を賜りました進藤会員にはこの場を借りて心より御礼申し上げます。

2007 年度予算案について

大学史研究会では、次年度の予算案について、まず事務局が基本案を作成し、これを総会に提示し、そこでの審議を経て最終決定をいたします。例年と同様、2007 年度予算もこの手順にしたがって基本案が作成され、総会審議を経て予算案が決定しましたので以下にご報告いたします。

【収入案】

収入案は例年にしたがって、計上いたしました。

収入は年会費と紀要売り上げがすべてです。なかでも、本研究会の運営経費は年会費納入に大きく依存しております。2007 年度においては、本年度会計報告より約 70,000 円増の 650,000 円を収入予定額として設定しました。繰り返しとなりますが、2007 年度も会員各位のご理解ご協力をお願いする次第です。なお、現時点で 2006 年度会費未納の方にはこのたび当該年度の年会費納入依頼通知・払込票を同封いたしました。2007 年度会費の納入につきましては、4 月以降に納入依頼通知・払込票を送付いたします。

紀要売り上げは例年並みの収入を想定しました。紀要はおかげをもちまして編集委員会の営業努力を賜り、会計をうるおしていただくようになりました。非会員への販売制度も確立しましたので、今後とも引き続きよろしくお願い申し上げます。

総収入額は 3,764,103 円、繰越金を除く総収入額は 700,120 円としました。

【支出案】

支出案も例年設定している支出項目と支出額を考慮しつつ、算出いたしました。

2007 年度においては、「大学史研究」を一回（第 22 号）発行する予定になっております。発行経費（制作・印刷・発送費の総計）は 350,000 円です。例年、紀要の発行経費は二回分を計上しておりましたが、ここ数年は年一回の発行が続いており、また 2006 年度には発行されませんでした。こうした実績を踏まえて、一回分の経費といたしました。紀要発行は研究会の活性化にとって最も重要な事業です。投稿論文の数に応じて年二回の発行となる場合には、その都度柔軟に対応させていただきたいと思っております。

2007 年度新たに設定された費目としては、名簿発行経費です。昨春の名簿調査に基づき、近々発行される予定です。

大学史研究会ホームページにつきましては、研究会の情報発信機能として、今後一層の充実と活用を図る予定です。この経費として 30,000 円を含めております。

編集委員会、及び事務局の会合費（交通旅費を含む）については、かつての総会で承認された項目ですので、それぞれ 50,000 円を計上いたしました。研究会の円滑な運営

を目指して、定期的に会合を開けるように努力したいと思っております。

その他諸経費は、ほぼ例年通りの額を計上しました。

なお、本予算案には計上いたしませんでしたが、このたびの第29回セミナー開催にあたっては、多くの非会員の報告者をお招きしたことにより、例年を大幅に上回る開催経費支出がありますことを申し添えておきます。

2007年度から次年度への繰越金は3,114,103円、繰越金をのぞく総支出予算案は、650,000円を予定しています。

上記2006年度予算案は、2006年11月25日(土)に、近畿大学にて開催された大学史研究会総会で審議・検討され、承認されました。

昨年度より、全体としては緊縮財政を謳っておりますものの、予算の有効活用にむけての支出にはやぶさかではありません。「大学史研究会の発展のため」、あるいは「会員サービスのため」に必要な経費支出の要請があった場合は、事務局でこれを検討し、それが妥当性をもつと判断しうるかぎり、新たな支出も認められております。今後とも会員各位からのご提案、ご教示を歓迎いたしますとともに、研究会の将来的なことも併せてご検討いただければ幸いです。

以上の「2006年度会計報告」及び「2007年度予算案」につきまして、ご質問、ご提案等ございましたら、事務局までご連絡のほどよろしくお願いいたします。

(事務局会計担当 杉谷祐美子)

大学史研究会 総会 資料 (2006年11月25日：近畿大学)

大学史研究会 2006年度 会計報告
(自2005年12月17日～至2006年11月24日)

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	¥2,630,069	印刷費	¥1,604
年会費・入会金	¥580,240	通信・郵送費	¥100,230
第28回セミナー開催残金	¥13,607	消耗品・諸雑費(文具・振込み手数料等)	¥5,687
利息	¥119	謝金(通信発送・名簿データ入力業務補助)	¥30,000
		編集委員会旅費	¥4,730
		事務局会議費	¥17,801
		次年度繰越金	¥3,063,983
計	¥3,224,035	計	¥3,224,035
前年度繰越金を除く総収入	金 593,966 円	次年度繰越金を除く総支出	金 160,052 円
		上記収支差し引き	金 433,914 円

上記のとおり、報告いたします。(事務局 会計担当 杉谷祐美子)



上記の会計報告について会計監査を実施した結果、領収書ならびに預金通帳等はすべて妥当かつ正確に処理されていることを認めましたので報告いたします。

(会計監査)

進藤 修一



大学史研究会 2007 年度 予算案
(自 2006 年 11 月 25 日 ~ 至 2007 年 総会開催前日)

収入

支出

科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	¥3,063,983	「大学史研究第 22 号」編集・印刷・発送費	¥350,000
年会費・入会金	¥650,000	名簿発行経費	¥35,000
「大学史研究」売上金	¥50,000	ホームページ管理費	¥30,000
利息	¥120	編集委員会会合費・旅費	¥50,000
		事務局会議経費・旅費	¥50,000
		印刷費	¥20,000
		通信費	¥75,000
		消耗品・諸雑費	¥10,000
		謝金(アルバイト代)	¥30,000
		次年度繰越金	¥3,114,103
計	¥3,764,103	計	¥3,764,103

前年度繰越金を除く総収入 金 700,120 円 次年度繰越金を除く総支出 金 650,000 円

上記のとおり、ご提案いたします。(大学史研究会 事務局)

2006 年度年会費未納の方へ ~ 納入のお願い ~

本研究通信に掲載されております会計報告のとおり、大学史研究会の実収入は会員各位からの年会費に大きくよっております。2006 年度、全会員数に対する年会費納入率は約 60% であり、未納会員も少なからぬ状況です。そこで、2006 年度の年会費納入依頼通知は昨夏に発送させていただきましたが、2007 年 1 月 24 日現在未納の方につきましては、会費納入依頼通知と払込票を再送させていただくこととしました。研究会の発展と円滑な運営のため、なにとぞ会員各位のご理解ご協力をお願い申し上げる次第です。年会費納入の詳細につきましては、同封しております納入依頼通知をご覧ください。

年会費は 5,000 円です。大学院等在学、あるいは日本学術振興会特別研究員の各位には「院生・学生会費(年会費 3,000 円)」制度が適用されます。過年度分年会費未納の会員各位には、同封書類に、未納年度と 2006 年度会費分を含めた金額総計をご連絡しております。年会費 3 ヶ年度分以上の滞納会員には、研究会継続参加のご意志を年会費納入によって確認できるまで、大学史研究会からの諸連絡や「研究通信」、紀要「大学史研究」等の発送を停止することになっております。該当会員へのご連絡通知には、これに関する事項が記載されておりますので、ご留意願います。

なお、本依頼通知発送と入れ違いに年会費を納入いただきました場合には、何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。

年会費納入払込先

郵便振替口座 大学史研究会 口座番号 00120-3-47583

または

銀行口座 大学史研究会 三井住友銀行 池袋東口支店(店番 671)
普通預金(口座番号 3456109)

(事務局会計担当 杉谷祐美子)

会員新刊ニュース

- 1) 犬塚典子『アメリカ連邦政府による大学生経済支援政策』東信堂、2006年。
- 2) 寺崎昌男『大学は歴史の思想で変わる - FD・評価・私学』東信堂、2006年。

「会員新刊ニュース」情報提供のお願い

本通信では、会員の研究活動の紹介を心がけておりますが、編集者の情報のみでは限界があります。新刊を発行されたご本人、あるいは会員が新刊を発行されたという情報を得られた方は、事務局（代表Eメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）もしくは本紙編集担当の福留までご一報頂ければ幸いです。

退会者の報告

以下の会員の方が退会されます。長い間本会の活動にご協力賜りまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

退会者： 加来祥男 会員、 辻学 会員、 田村栄子 会員

原稿募集

『大学史研究通信』第50号は2007年4月30日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催の行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は事務局（代表Eメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）もしくは本紙編集担当の福留までお願いいたします。

住所・所属変更届のお願い

住所や所属（昇任・学位取得も含む）に変更のある会員は事務局までご一報くださるようお願いいたします。また、教授・研究のために海外にご滞在予定の方も、海外でのご連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は事務局代表Eメールアドレス（jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）までお願いいたします。なお、変更届にあたっては、年会費払込票（郵便口座）の「通信欄」を利用することも可能です。

『大学史研究通信』バックナンバー希望者に頒布いたします

『大学史研究通信』第14号～現在発行号までを希望者に頒布いたします。事務局代表Eメールアドレス（jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）までご連絡ください。折り返し、請求方法をご連絡いたします。

編集後記

通信 49 号をお届けいたします。今回は、総会で事務局からさまざまな提案を行ったことと関係し、事務局からの報告が中心となりました。セミナーは、報告にもある通り盛会裏に無事終了いたしました。課題研究では、幕末から維新後の時期にかけて、日本がどのようにして諸外国の学問を取り入れていったのかがさまざまな角度から紹介され、日本が近代化へ向かう中での試行錯誤の一端を見る思いがいたしました。

本通信は次号が区切りの 50 号となります。事務局では会員の皆様からのご投稿を受け付けております。本研究会の領域に関わるものであればどのようなものでも結構ですので、会の活性化のため、積極的なご投稿をよろしくお願いいたします。

(福留東土 記)

『大学史研究通信』第 49 号の編集は事務局・福留東土が担当いたしました。

連絡先 〒186-8601 国立市中 2 - 1
一橋大学 大学教育研究開発センター
TEL: 042-580-8995 FAX: 042-580-8997
E-mail: h.fuku@srv.cc.hit-u.ac.jp

『大学史研究通信』第 50 号は、2007 年 4 月 30 日発行予定です。

大学史研究会事務局

〒635 8530 奈良県大和高田市東中 127
奈良文化女子短期大学 吉村日出東研究室内 大学史研究会
TEL: 0745 52 1279 E-mail: yosimura@narabunka.ac.jp
URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jshshe/>

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表 E メールアドレスまでお願いいたします。
E-mail: jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp

大学史研究会事務局員（五十音順）

岡田 大士	(政策研究大学院大学)	杉谷 祐美子	(青山学院大学)
田中 正弘	(島根大学)	福石 賢一	(九州女子大学)
福留 東土	(一橋大学)	吉野 剛弘	(東京電機大学)
吉村 日出東	(明治大学)		